

# 旭労災病院ニュース

病院情報誌 第105号 平成26年8月1日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8585

尾張旭市平子町北61番地

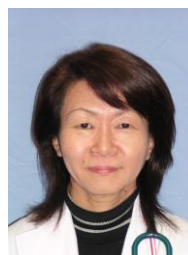
TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

## 小1プロブレム

小児科主任部長 安藤 郁子



小1プロブレムとは、小学校入学直後の1年生のクラスに様々な問題が起こり授業や集団生活が成り立たないことを言います。2000年ころから取り沙汰され、現在では公立小学校の2割以上で起きていると報告されています。具体的には、授業中に座ってられない、先生の指示が伝わらない、ちょっとしたことで友達とけんかになってしまう、学習内容についていけないなどです。以前言われた学級崩壊とは異なり、これらの問題が小学校入学直後に起こり、子どもの不満や反発が原因でも先生のスキルの問題でもなく、子どもそのものの生活習慣や対人関係スキルの未熟さからくるものと言われています。自由度が高く（やらなくても済んでしまう）、子どもの個々の活動に合った（じっと座って、我慢して、人の指示に従う必要のない）園での生活から、学校という集団の中の一員として活動する生活は、子どもにとって急激な環境変化であり、その結果不適応を起こすのです。教育の現場ではこれを「段差」と言います。この段差をなくするために学校と園が連携をとり、一定時間座っているスキル、人の話を聞くスキルなどを園の年長組の活動の中に組み込んだり、早寝早起きなどの生活習慣や、身支度や食事を一人で行うなどの身辺自立も指導して行かないといけない事態になっています。確かにこれらの不適応を起こす子どもの中には自閉症、注意欠陥多動症、学習障害などの発達障害の子どももいますが、定型発達とされている子どもでも問題となっています。生まれながらの脳の問題か、育て方の問題か、またその両者なのか？私共の発達支援外来にはそのような問題を抱えた子どもや家族だけでなく、学校の先生も相談に来られる昨今です。

# アトピー性皮膚炎の治療における指標としてのTARC

皮膚科部長 森 誉子



アトピー性皮膚炎（AD）は患者の多くがアトピー素因をもっており、慢性的に増悪と寛解を繰り返しますが、症状の程度に応じた適切な治療を行うことにより、症状がコントロールされた状態に維持されると自然寛解も期待できる疾患です。しかし、近年、特に 30 歳以上の有病率が増加している上に、重症化・難治化傾向が問題となっており、重症度に応じた適切な治療の重要性が改めて指摘されています。

AD に対する治療法としては、急性期にステロイド外用薬やタクロリムス軟膏などの抗炎症外用薬で炎症を抑えて寛解導入し、その後は保湿剤を使用していくという治療が一般的です。最近では皮疹の軽快後も 1～2 回抗炎症薬を外用することにより、長期に寛解を維持しようとするプロアクティブ療法も推奨されるようになってきています。

従来 皮膚を視診し、炎症の程度を判断していく際に、病勢マーカーとして補助的に使用してきたのは、好酸球、LDH、IgE でしたが、新たに加わったのが、TARC (thymus and activation-regulated chemokine) です。TARC は、白血球走化作用を持つケモカインの 1 つです。AD は、病変部の表皮角化細胞により産生された TARC がリンパ球 (CCR4 を発現する Th2 細胞) を局所に遊走させ、Th2 優位の免疫応答により、IgE 産生や好酸球の浸潤・活性化が惹起されてアレルギー症状が出現すると考えられています。

AD の治療では、重症度に応じてステロイド外用薬の薬効等を慎重に選択する必要があり、重症度を正確に把握することが大切です。TARC 値は、重症度と相関し、病勢の変化を鋭敏に短期的に反映する検査であることが示されています。治療薬の選択・変更を検討する際、主体となる皮膚炎症状の評価に加え、重症度評価の補助として臨床的に有用であると考えられます。

重症 AD に対するシクロスポリン内服の効果判定、継続の判断や、皮疹軽快後にプロアクティブ療法に切り替えていく指標としても、TARC 値は適しているのではないかと考えられています。成人では 700pg/ml が中等症と軽症の境界とされていますが、状態が落ち着いたとする目標として 500pg/ml を挙げる報告があります。

TARC 値という数値による客観的な指標を示すことにより、患者さんも自身の状態を把握しやすくなり、治療意欲向上につながると思われまます。

## 病診連携室からのお知らせ

### 【医師異動】

7月をもちまして、整形外科 井上真輔医師が、退職しました。それに伴い脊椎専門外来が終診となりましたのでご了承ください。

# 第一回病診連携システム運営協議会

平成26年7月23日（水）に平成26年度第1回病診連携システム運営協議会を開催しました。木村院長の挨拶の後、病診連携の実績報告を行い、参加された委員の先生方と活発な意見交換を行いました。

最後に宇佐美副院長は、在宅介護連携事業への積極的な参加や市民公開講座の開催などを通じて、地域医療連携における当院の役割を拡げていくと挨拶しました。



# 旭労災病院市民公開講座

平成26年6月28日（土）に、尾張旭市保健福祉センター4階シアタールームにて旭労災病院市民公開講座を開催しました。

宇佐美副院長の司会のもと、生活習慣病・メタボリックシンドロームをテーマに、岸糖尿病内分泌内科部長と久保中央リハビリテーション部部長が講演を行いました。42名の参加者にお集まりいただきました。

